

いまいのぶお 今井 信雄 教授

専門分野・キーワード

- 近代化
- 文化
- 集合的記憶

／ 教育・研究内容

社会的な「記憶」について研究している。社会学で「記憶」と言えば、M・アルヴァックスの「集合的記憶」の考え方がよく知られているが、アルヴァックスの集合的記憶論の要点は、われわれの「記憶」というものが「現在」の時点で常につくられ、集団の中で集合的に思い出される、ということにある。しかし、(医学的なアプローチを除き)「記憶」は、それ自体として分析したり考察するのは難しい。なぜなら「記憶」は、ある出来事や物事を思い出したときにはじめて事後的に「記憶」していた、ということが証明されるからである。

そこで、社会学における記憶研究は、記憶そのものではなく想起のあり方の研究となる。過去をどのように「記憶」し「想起」するのか、ということである。もう少しいえば、社会や人々が「過去」をどのように流用し、表象し、「現在」の一部としているかということになる。

そのように「記憶」を捉えると、扱う対象はかなり広がっていくが、私自身は、大学院生時代に修士論文で、伝統的祭祀の観光化の研究と阪神淡路大震災の慰霊碑による追悼・記念の研究を始めたことから、「記憶」研究という形で自身の研究を捉えるようになったので、自分の研究のすべてを「記憶」として説明しようとは考えていない。繰り返しになるが、「過去」がどのように「現在」の一部となっているか、ということを考えている。

今は、災害の記憶研究とともに、文化の資源化のプロセスについて、社会学の枠組みで理論化したいと考え、データをそろえている。とくに世界文化遺産など、過去が消費社会の中で「消費」されることで、新たな社会秩序が生成し続けている現代社会を实地調査なども踏まえ研究している。

大学院生の教育方針については、基本的には、自由にテーマを決めて活動してもらいたいと思っている。大学院生の研究実績や意欲に応じて、学会発表や研究会での発表を奨励している。

以前、社会学研究科の要職を務めたことがあるが、本学社会学研究科は、本当に研究教育環境が充実している。大学院生はその環境を生かしながら、恵まれた環境に甘んじることなく、社会学のディシプリンを身につけ研究を深めてもらいたいと思っている。

／ 代表的な著書・論文等

今井信雄 2020、「観光現象から考える『社会』と『私たち』のすがた—観光の社会学」、油井清光ほか(編)『3step シリーズ 社会学』昭和堂

今井信雄 2019、「記憶のかたち—災害の「まえ」と「あと」をつないで伝える」、吉野英岐・加藤真義編『シリーズ東日本大震災 第3巻 震災と復興—新しい東北をめざして』有斐閣

今井信雄 2015、「『記憶を伝える』とはどうゆうことか?」、山口大学 時間学研究所(編)『時間学の構築 I 防災と時間』恒星社厚生閣

今井信雄 2014、「災害の記憶—写真・保存・時間」、荻野昌弘・蘭信三(編)『3.11 以前の社会学—阪神・淡路大震災から東日本大震災へ』生活書院

今井信雄 2013、「敗戦国の都市空間を把握する—群馬県における軍用地の跡地利用」、荻野昌弘(編)『叢書 戦争が生み出す社会 I 戦後社会の変動と記憶』新曜社

今井信雄 2013、「震災を忘れてるのは誰か—被災遺物の保存の社会学」、関西社会学会(編)『フォーラム現代社会学』第12号、松香堂書店

Nobuo Imai, 2012, Death, Modernity and Monuments: The Realities Expressed in the Monuments of the Hanshin-Awaji Earthquake, International Journal of Japanese Sociology, vol. 21, The Japan Sociological Society, Willey-Blackwell

今井信雄 2009、「死者と記憶—震災を想起させる時間、空間、そして映像について」、大野道邦・小川伸彦(編)『文化の社会学—記憶・メディア・身体』文理閣

今井信雄 2008、「地域の暮らしと観光文化」、津久井良光・原田寛明(編)『観光政策へのアプローチ』鷹書房弓プレス

今井信雄 2008、「記憶と社会 M. アルバックス『集合的記憶』」、井上俊・伊藤公雄(編)『社会学ベーシックス 第1巻 自己・他者・関係』世界思想社

今井信雄 2007、「ある地方都市の噂—不確かな隣人とモータリゼーションの社会学」、日仏社会学会(編)『日仏社会学会年報』第17号

／ 研究紹介のホームページなど追加情報

そのほか、阪神淡路大震災や東日本大震災など、災害被災地での記憶継承の問題について何度か発言してきました。新聞などに掲載記事があるので、検索するとみられると思います。

いまい のぶお
今井 信雄 教授 Professor Nobuo Imai

専門分野・キーワード

- 近代化
- 文化
- 集合的記憶

Areas of Expertise / Keywords

Modernization
Culture
Collective memory

社会的な「記憶」について研究している。社会学で「記憶」と言えば、M・アルヴァックスの「集合的記憶」の考え方がよく知られているが、アルヴァックスの集合的記憶論の要点は、われわれの「記憶」というものが「現在」の時点で常につくられ、集団の中で集合的に思い出される、ということにある。しかし、(医学的なアプローチを除き)「記憶」は、それ自体として分析したり考察するのは難しい。なぜなら「記憶」は、ある出来事や物事を思い出したときにはじめて事後的に「記憶」していた、ということが証明されるからである。

I am researching social "memory". Speaking of "memory" in sociology, M. Halbwachs' idea of "collective memory" is well known. The main point of his theory of collective memory is that our "memories" are always created in the "present" and are recalled collectively in a group. However, memory is difficult to analyze and examine on its own (except through a medical approach), because it is only when we remember an event or thing that we can prove that we remembered it after the fact. The main point of his theory of collective memory is that our "memories" are always created in the "present" and are recalled collectively in a group. However, memory is difficult to analyze and examine on its own (except through a medical approach), because it is only when we remember an event or thing that we can prove after the fact that we remembered it.

そこで、社会学における記憶研究は、記憶そのものではなく想起のあり方の研究となる。過去をどのように「記憶」し「想起」するのか、ということである。もう少しいえば、社会や人々が「過去」をどのように流用し、表象し、「現在」の一部としているかということになる。

Therefore, the study of memory in sociology is not the study of memory itself, but the study of the way of recalling. It is about how we "remember" and "recall" the past. More specifically, it is about how society and people appropriated and represented the "past" and made it part of the "present."

そのように「記憶」を捉えると、扱う対象はかなり広がっていくが、私自身は、大学院生時代に修士論文で、伝統的祭祀の観光化の研究と阪神淡路大震災の慰霊碑による追悼・記念の研究を始めたことから、「記憶」研究という形で自身の研究を捉えるようになったので、自分の研究のすべてを「記憶」として説明しようとは考えていない。繰り返しになるが、「過去」がどのように「現在」の一部となっているか、ということを考えている。

If we look at "memory" in this way, the subject matter we are dealing with becomes quite broad. When I was a graduate student, I started my master's thesis researching the tourism of traditional rituals and the

memorialization and commemoration of the Great Hanshin-Awaji Earthquake through cenotaphs, which led me to view my own research in the form of "memory" research. Again, I am thinking about how the "past" is a part of the "present".

今は、災害の記憶研究とともに、文化の資源化のプロセスについて、社会学の枠組みで理論化したいと考え、データをそろえている。とくに世界文化遺産など、過去が消費社会の中で「消費」されることで、新たな社会秩序が生成し続けている現代社会を実地調査なども踏まえ研究している。

In addition to researching the memory of disasters, I am currently gathering data to theorize the process of cultural resource use within a sociological framework. In particular, I am researching contemporary society, where the past is "consumed" in a consumer society and a new social order continues to be created, such as the World Cultural Heritage, based on field research.

大学院生の教育方針については、基本的には、自由にテーマを決めて活動してもらいたいと思っている。大学院生の研究実績や意欲に応じて、学会発表や研究会での発表を奨励している。

以前、社会学研究科の要職を務めたことがあるが、本学社会学研究科は、本当に研究教育環境が充実している。大学院生はその環境を生かしながら、恵まれた環境に甘んじることなく、社会学のディシプリンを身につけ研究を深めてもらいたいと思っている。

Regarding the educational policy for graduate students, we basically want them to be free to choose their own themes and activities. Depending on the research achievements and motivation of the graduate students, I encourage them to make presentations at conferences and research meetings.

I used to hold a key position at the Graduate School of Sociology, and the Graduate School of Sociology at this university really has a rich research and education environment. I hope that graduate students will make the most of this environment and deepen their research by acquiring the discipline of sociology.

代表的な著書・論文等

今井信雄 2020、「観光現象から考える『社会』と『私たち』のすがた—観光の社会学」、油井清光ほか（編）『3 step シリーズ 社会学』昭和堂

今井信雄 2019、「記憶のかたち—災害の「まえ」と「あと」をつないで伝える」、吉野英岐・加藤眞義編『シリーズ東日本大震災 第3巻 震災と復興—新しい東北をめざして』有斐閣

今井信雄 2015、「『記憶を伝える』とはどうゆうことか?」、山口大学 時間学研究所（編）『時間学の構築 I 防災と時間』恒星社厚生閣

今井信雄 2014、「災害の記憶—写真・保存・時間」、荻野昌弘・蘭信三（編）『3.11 以前の社会学—阪神・淡路大震災から東日本大震災へ』生活書院

今井信雄 2013、「敗戦国の都市空間を把握する—群馬県における軍用地の跡地利用」、荻野昌弘（編）『叢書 戦争が生み出す社会 I 戦後社会の変動と記憶』新曜社

今井信雄 2013、「震災を忘れてるのは誰か—被災遺物の保存の社会学」、関西社会学会（編）『フォーラム現代社会学』第12号、松香堂書店

Nobuo Imai, 2012, Death, Modernity and Monuments: The Realities Expressed in the Monuments of the Hanshin-Awaji Earthquake, International Journal of Japanese Sociology, vol. 21, The Japan Sociological Society, Willey-Blackwell

今井信雄 2009、「死者と記憶—震災を想起させる時間、空間、そして映像について」、大野道邦・小川伸

彦（編）『文化の社会学—記憶・メディア・身体』文理閣

今井信雄 2008、「地域の暮らしと観光文化」、津久井良光・原田寛明（編）『観光政策へのアプローチ』
鷹書房弓プレス

今井信雄 2008、「記憶と社会 M. アルバクス『集合的記憶』」、井上俊・伊藤公雄（編）『社会学ベーシ
ックス 第1巻 自己・他者・関係』世界思想社

今井信雄 2007、「ある地方都市の噂—不確かな隣人とモータリゼーションの社会学」、日仏社会学会（編）
『日仏社会学会年報』第17号

Main Publications

Imai, Nobuo 2020, "The Shape of 'Society' and 'We' from the Viewpoint of Tourism Phenomena: The Sociology of Tourism", in Kiyomitsu Yui et al (eds.), 3step Series in Sociology, Showa-do, Tokyo

Imai, Nobuo 2019, "The Shape of Memory: Connecting and Communicating the 'Before' and 'After' of Disaster," in Eiki Yoshino and Masayoshi Kato (eds.), Series of Great East Japan Earthquake Vol. 3: Disaster and Reconstruction: Towards a New Tohoku, Yuhikaku

Imai, Nobuo 2015, "What does it mean to 'pass on memories'?" In "Construction of Temporal Studies I: Disaster Prevention and Time" (ed.), Institute of Temporal Studies, Yamaguchi University, Koseisha Kosei-kaku.

Imai, Nobuo 2014, "Disaster Memory: Photography, Preservation, and Time", in Masahiro Ogino and Shinzo Ran (eds.), Sociology before 3.11: From the Great Hanshin-Awaji Earthquake to the Great East Japan Earthquake, Seikatsu Shoin

Imai, Nobuo 2013, "Grasping the Urban Space of Defeated Nations: The Use of Former Military Land in Gunma Prefecture", in Masahiro Ogino (ed.), Soshō: Senso ga Seisaku Shakai I: Sengo Shakai no Henka to Renga (Sociology of War I: Changes and Memories of Postwar Society), Shinyosha

Imai, Nobuo, 2013, "Who forgets the earthquake: The sociology of the preservation of disaster relics", in Kansai Sociological Society (ed.), Forum Modern Sociology, No.12, Shokado Shoten

Nobuo Imai, 2012, Death, Modernity and Monuments: The Realities Expressed in the Monuments of the Hanshin-Awaji Earthquake, International Journal of Japanese Sociology, vol. 21, The Japan Sociological Society, Willey-Blackwell

Nobuo Imai 2009, "The Dead and Memory: On Time, Space, and Images Recalling the Earthquake", in Michikuni Ohno and Nobuhiko Ogawa (eds.), Sociology of Culture: Memory, Media, and the Body, Bunri-Kaku

Nobuo Imai 2008, "Local Life and Tourism Culture", in Yoshimitsu Tsukui and Hiroaki Harada (eds.), Approaches to Tourism Policy, Takashobo Yumie Press

Nobuo Imai 2008, "Memory and Society: M. Albaks' Collective Memory", in Toshi Inoue and Kimio Ito (eds.), Sociology Basics Volume 1: Self, Others, and Relations, Sekai Shiso-sha, Inc.

Imai, Nobuo 2007, "Rumors in a Regional City: Uncertain Neighbors and the Sociology of Motorization", Annual Report of the Franco-Japanese Sociological Society (ed.), No. 17

研究紹介のホームページなど追加情報

そのほか、阪神淡路大震災や東日本大震災など、災害被災地での記憶継承の問題について何度か発言してきました。新聞などに掲載記事があるので、検索するとみられると思います。

Additional information, including a website for research introduction

In addition, I have spoken several times on the issue of memory transmission in disaster-affected areas, such as the Great Hanshin-Awaji Earthquake and the Great East Japan Earthquake. I have published articles in newspapers and other media, and you can find them by searching.